

令和5年度 園評価・関係者評価書

園名	加西市立加西こども園
----	------------

1. 教育・保育目標

心豊かにたくましく生きる子 ○自分で考え行動する子 ○友達と育ち合う子 ○健康で心と体の強い子

2. 本年度の重点目標

「関わり・つながり・育ち合う子をめざして」
— チームで語り合う 環境の構成と援助のあり方 —

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	評価	自己評価・改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	B	・園外研修では参加回数に偏りが見られる。次年度は、誰もが研修に参加しやすいように職員体制を整え、自己研鑽に努めたい。 ・職員の意向に基づいた研修ができるように園内研修会を計画すると共に、互いの保育を見合う機会も見直し、語り合いやすいメンバー構成や雰囲気など工夫していきたい。 ・年度初め、園務について認識できるように会議をもち、それぞれが責任を果たせるように計画を立てていく。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分に関わって展開する生活の工夫 ○子どもの主体性を大切にした指導 ○子ども一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	A	・園児自らが積極的に関われるような事物や自然事象などの周囲環境を、職員間で定期的に見直す機会をもつようにする。更に、発達の道筋を見直し、今ある環境が園児にもたらす影響についても職員間で対話を重ねていく。 ・園児との信頼関係を築くことを前提とし、保育教諭が安全基地となり園児が伸び伸びとやりたいことを発揮できる関係性をつくる。 ・自己主張と自己抑制の調和がとれるよう、友達同士の意見が食い違う場面の対応を丁寧に行う。
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○預かり保育の実施	B	・より多くの保護者に参加していただける家庭教育講座開催の仕方を保育参加の内容と共に工夫していく。 ・園庭開放は校区外からも参加いただけるよう、情報発信したり、内容も検討したりしていく。 ・保護者からの意見は、園内で気付かないことを教えてもらっていることも多いことから、これからも真摯に受け止め対応していきたい。 ・一時預かりは今後も積極的に受け入れていきたい。
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	A	・小さなヒアリングにも見逃さず、全職員で共通理解が図れるように伝言ボードに掲示するなど伝達方法を工夫し、優先度が高いことから対応していきたい。 ・突発的に訓練を行うことにより職員の危機管理意識が高まった。今後も、様々な場面を想定して行い意識向上につなげたい。 ・感染症判明時には、速やかに現状把握に努め、情報を発信することで保護者への注意喚起と安心に繋げたい。
道 徳 ・ 人 権 教 育	○子どもの体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気付きを育む環境の工夫	A	・集団生活の中だからこそ起こる思いの食い違いや物の取り合いなどの衝突体験を、思いやりを育む場面として重視し、相手の思いに気付くことや自分の気持ちに折り合いがつけられるように、より丁寧な関わりを心がける。 ・保育教諭自身がみずみずしい感性を磨き、また、五感に触れられる環境を構成していく。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	A	・職員間で日頃の様子や特性に対する対応の仕方などを報告し理解を深め、職員間で連携して支援できるように努める。 ・保護者の悩みに寄り添い、レスパイトできる方法を考えたり、関係機関との連携の継続を図りながら、サポート体制を構築していく。 ・小学校教職員との話し合いの中で、気になる園児の情報を発信し園が意図して配慮し支援してきた内容についての引継ぎを丁寧に行う。
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○こども園・小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流	A	・園生活を知ろうとされる保護者の立場に立って、分かりやすく・伝える方法(youtube配信や掲示、手紙など)を考えると共に、預かり保育利用児の保護者への伝達方法を探る。 ・多様な体験が実現できるように保護者の協力を得て、地域の資源や人材に目を向け働きかけていく。更に高校生などのインターンシップを積極的に受け入れていく。 ・引き続き、小学校やこども園と連絡を取り合い、年間計画に位置付けて園児の育ちを小学校に引き継いでいく。

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

・保護者向けの園評価においても、おおむねA評価が多いことから、総合的な評価はAと判断する。
・全職員で振り返りをしたと聞いたが、少ない時間の中で振り返ることが大事である。達成できていないところは、次年度に向けての改善策に向かって実践してほしい。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・互いの保育を見つめ合い、困っていることや直面していることを改善し合うのが最善の研修である。そこに向かう園内の雰囲気づくりも大事である。 ・隙間の時間を利用して、個々が学んだことをチームで語り合ってもらいたい。 ・職員の資質向上は子ども達の成長に直結するので、向上心をもって学び続けてほしい。 ・教育委員会と調整し合いながら、外部研修と内部研修のバランスを図り、充実させてほしい。
・コロナがきっかけとなり、略式ではない行事の見直しになったと思う。ピンチをチャンスとして捉え、年齢に応じた行事の在り方の話し合いができたのではないかな。異年齢での関わりにおいては、これからも、1階と2階のクラスの顔が知れる関係性づくりに努めてほしい。 ・2階の空き教室がうまく使われていた。今日の遊びが翌日もつながり、自発的に遊び始められ、試行錯誤が継続できる環境構成であった。 ・保育教諭主導ではなく、子ども達に任せる保育を心掛け、小学校へも子ども達の育ちを発信続けてほしい。
・親育では園の大事な役割である。どうすれば子育ては楽しいのか。今まさに保護者が直面しているこの時期こそが、楽しい時期なのだということを、子どものつづきやきなどを通して発信し続けてほしい。 ・家庭教育講座の開催方法については、オンライン開催など、園が考えている方法を実践してみてほしい。
・有事の時の協力体制や機転を利かすためにも、職員一人一人が経験値を増やし、知識を得続けなければならないと感じる。 ・感染症の発信など、安心安全な園生活につながるような工夫が見られた。どのような環境に置かれても、職種の違う職員同士で助け合い、大きな行事も乗り越える姿があった。突発的なことに遭遇したとしても、自分事として捉え、自分だったらどうするかという意識を常に持ち続けることが大事である。
・道徳教育では、トラブルの対応において、自身の対応を振り返るためにも職員間で報・連・相を行い、互いの人権感覚について語り合ってもらいたい。 ・子ども達の豊かな感性を磨くには、保育教諭のみずみずしい感性を大切にしてほしい。保育教諭の気付きや受け止めたことを、職員同士で語り合い、互いの感性を伝え合い刺激し合ってもらいたい。
・トライアングルプロジェクトは、今後も継続させてほしい。 ・様々な行事に参加してきたが、職員の対応が温かい。その姿を見ている子ども達もよく育っている。お話遊びでは、1年間、居住地地域交流してきた友達が自然な流れの中での登場場面もあり、温かい気持ちを感じられた。
・子どものつづきやきを捉えているおたよりが素晴らしい。伝えたい内容や思いがしっかりと伝わってきた。保護者には園での出来事が、子どもとの会話が広がるツールとなった。 ・忙しい保護者にきめ細やかに、そして、読みたくなるような内容の精査が課題である。 ・連携を深めるためには、職員の強い意志がいる、それが子どもに返っていく。